

平成23年度 北海道ブロッククラブミーティング 2011 開催報告

日時： [第1日目] 平成23年11月18日（金） 13:00～16:50

[第2日目] 平成23年11月19日（土） 13:00～16:40

会場：北海道立総合体育センター 北海きたえーる

内容：

[1日目]

- (1) 開会あいさつ・プログラム趣旨説明
- (2) [情報提供] スポーツ基本法の成立とスポーツクラブのこれから
- (3) [グループディスカッション] 本音で語ろう、クラブの課題
- (4) まとめ

[2日目]

- (1) 開会あいさつ・プログラム趣旨説明
- (2) [情報提供]
 - ①スポーツ基本法の成立とスポーツクラブのこれから
 - ②地域課題とどう向き合うか
- (3) [ブースセッション]
 - ①「地域コミュニティの再生」
 - ②「子どもの体力問題」
 - ③「女性の活躍の場を拓げる」
- (4) まとめ

【概要】

北海道ブロックミーティングでは、「地域の課題解決」を根幹のテーマに地域の課題をメリットに変えることが総合型クラブの大きな役割になってくると考え、両日共通として、「スポーツ基本法の成立とスポーツクラブのこれから」について北海道ブロック地方企画班・山本班長からの情報提供があった。

1日目の創設支援クラブ向けには、「本音で語ろう、クラブの課題」について2つのグループに分けディスカッションを行った。

2日目は、地域の課題に取り組んでいる事例から解決策を探っていく事とし、伊端班員からの「地域課題とどう向き合うか」についての情報提供の後、「地域コミュニティの再生」「子どもの体力問題」「女性の活躍の場を拓げる」をテーマに7クラブより事例発表があり、引き続いてブースセッションを行った。



【討議内容】

<1日目>

【情報提供：スポーツ基本法の成立とスポーツクラブのこれから】

山本 理人 班長

スポーツ基本法第21条に着目し、地域における総合型クラブは今後重要なポジションとして位置付けられることを切り口に総合型クラブのあり方についての情報提供がなされた。

【グループディスカッション：本音で語ろう、クラブの課題】

2つのグループに分かれ、自己紹介と所属クラブのPR、特徴、課題などを3分以内という時間の中で発表し、クラブ設立に向けての共通課題やざっくりとした疑問などを話し合った。山本班長、林恒宏班員が各グループをコーディネートし、班員、アドバイザーも含めクラブ間での交流意見が飛び交い、一つのテーマで160分という時間をかけたことにより参加者全員が発表できたという事と、クラブ間の悩みや課題が類似しており、クラブを創設する段階、創設後のクラブ運営という段階、それぞれにおける事例や現況を共有できたことが成果であった。



【まとめ】

クラブ運営には、大なり小なり悩みはつき物である。これからクラブを設立しようとしている人達にとっては、この解決方法を知るといことが大切な部分である。疑問や課題を声に出すことによってたくさん情報を得ることができたいい機会であった。自己紹介から始まった160分に亘るグループディスカッションだったが、終了時の参加者の笑顔が地域いっぱいの笑顔に変わると実感した。

<2日目>

【情報提供】

① スポーツ基本法の成立とスポーツクラブのこれから

山本 理人 班長

参加対象クラブが主に設立済みという事もあり、より具体的に地域のために何ができるかが総合型クラブの位置づけを確立するという点を強調された。

②地域課題とどう向き合うかについて

総合型地域スポーツクラブ北海道ネット 伊端 隆康 会長

(北海道ブロック地方企画班員)

2011年日本体育協会クラブマネジメント指導者海外研修団の団長として赴いたドイツのクラブ事情を交えて、地域の課題へ目を向けることが総合型地域スポーツクラブの必要性を住民が感じる手立てとなることなど、先進クラブの実情等も含めた説明がなされた。



[ブースセッション]

① 地域コミュニティの再生

とまこまい・ぬま・あそび塾 島崎 鶴松 クラブマネジャー

ラジオ体操の帰り道に子供たちが気づいた花壇の中のゴミ。ここから定期的な清掃活動、花壇整備といった地域貢献活動への取り組みが始まった。子供たちの「気づき」が大人を動かしクラブの事業になった事例が紹介された。

スポーツコミュニティのぼりべつクラブ 磯田 大治 クラブマネジャー

北海道内の駅周辺の旧繁華街。シャッター商店街に着目し空き店舗を利用したクラブハウス作りについて事例発表された。内装は事務局と会員、スタッフによる手作りであり、現在、フィットネススタジオとして機能している。会員増にもつながった。

なかがわスポーツクラブ 高橋 信行 クラブマネジャー

ご自身が、中川町教育委員会次長であり、その前に保健福祉担当だったこと、人口2,000人を切る少子高齢化の町で、総合型地域スポーツクラブを一つの土俵にして物事を進めるツールと捉えて取り組んでいる点を発表された。

② 子どもの体力問題

枝幸三笠山スポーツクラブ「エムスク」井上 諭一 クラブマネジャー

スキー少年団へのコーディネーショントレーニングを利用した活動から会員・スタッフ10名が資格を取得して子どもの体力向上事業を展開している事例が発表された。

るもいスポーツクラブ「このゆびとまれ」鹿内 元暢 アシスタントマネジャー

留萌市教育委員会とタイアップした子供の体力向上事業について事例発表された。現在、小学校3年生を対象にクラブスタッフが小学校の授業として取り組んでいる。

③ 女性の活躍の場を拓ける

羅臼スポーツクラブらいず 岡部 雅美 クラブマネジャー

昨年よりクラブマネジャーとして羅臼スポーツクラブらいずに係わり、羅臼の自然＝知床の自然環境を生かしたホエールウォッチングやスノーシュー、シーカヤックなどの事業展開やクラブについての想いを伝えてくれた。

ぬまたエンジョイスportsクラブ Numap 藤井 麻美 クラブマネジャー

昨年、公認クラブマネジャー養成講習会を受講、見事合格を果たし、その経験と沼田町での総合型地域スポーツクラブの活動について、運営委員や指導者とのつながりを通して地域に根付くクラブ運営を心掛けていることなどが発表された。



[まとめ]

北海道内7クラブの事例は、それぞれが地域での「気づき」から総合型クラブを通して地域活動へと展開している。情報を共有しあって、クラブ間の交流を通してお互いに切磋琢磨し地域を十分に知って、総合型クラブとして何をするかがこれからの道だと感じた。

クラブの事を思うクラブ愛以上にその根底には地域愛があるのだと強く感じた。

(報告：北海道ブロック 地方企画班員 久保田 智)